

不登校特例校の取組について

～京都市立洛風中学校と洛友中学校について～

はじめに

令和3年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」では、全国の不登校の児童生徒数が、小学校・中学校で約24.5万人と過去最多を更新し、その教育をどう保障するかは喫緊の教育課題となっています。

一人一人の不登校に至るプロセスは様々であり、多様な要因が複雑に絡み合っている場合があります。そのため、不登校の子どもたちへの支援のあり方は一律ではありません。

本市の不登校児童生徒の在籍率は、全国平均に比べて低位ですが、「不登校はどの子どもにでも起こり得る」との課題意識の下、教員が一人で抱え込むのではなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職も含めたチーム学校としての支援に努めています。質問紙により学級実態を適切に把握し、対応策を導くための本市独自のツール「クラスマネジメントシート」を活用するとともに、校内会議で情報や見立てを共有し、多様な角度から不登校の子どもたちへの関わり方を協議するなど、一人一人の子どもが抱える背景や困りに応じた適切な支援を進めています。また、中学校3年生の30人学級実施や校務支援員の全校配置など、本市独自の人的措置により教員が子どもと向き合う時間を確保するとともに、小学校ではチーム担任制の取組により多面的な児童理解につなげています。

そうした取組を推進する一方、不登校の子どもたちの多様な居場所づくりとして、市内5か所に不登校の子どもたちが学校外で学習活動などを行う教育支援センター「ふれあいの杜」を設置するほか、不登校を経験した生徒のための中学校として、開校時間や集団規模が異なる2つの不登校特例校「京都市立洛風中学校（平成16年10月開校）」「京都市立洛友中学校（平成19年4月開校）」を全国に先駆け

て開校し、令和3年4月には、不登校経験など様々な困りを抱えた生徒を支える新しい定時制・単位制高校として京都市立京都奏和高等学校を開校しました。

本稿では、本市が取り組む不登校児童生徒への様々な支援施策のうち、不登校特例校の取組についてご紹介します。

1. 不登校特例校設置の背景

令和5年3月に文部科学省にて取りまとめられた「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策 CO-COLOプラン」では、全ての都道府県・政令市へ不登校特例校を設置することが目標として掲げられています。不登校特例校は、令和4年度時点で、全国に21校（公立12校、私立9校）設置されていますが、京都市が早くから設置を進めてきた背景には、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」京都市の伝統的な教育理念があります。

両校とも学校統合による空き校舎やグラウンドを活用しながら「不登校を経験し、学習面でも困っている子どもの役に立とう」「子どもたちを一人ぼっちにさせない、社会につなげていくことができる『新しい形の中学校』を作ろう」との強い思いのもと、柔軟な教育課程（年間授業時数770時間）を実現しました。開校後も、学力に課題のある生徒でも参加できる授業の開発や気になる生徒の様子についてスクールカウンセラーを交えた相談を行うなど、教職員総体で一人一人の生徒を大切に教育実践を積み重ねてきました。

2. 洛風中学校・洛友中学校の特色

(1) 洛風中学校について

洛風中学校は、不登校特例校の制度がまだなかった平

成16年10月、当時の「構造改革特区」（第3次認定申請）制度を活用した新たな学校として開校しました。

大きな特色としては、

- ① 基礎基本の定着を図るため、複数の指導者により個別対応できる学習の実施
- ② 京都の特性を活かした芸術・ものづくりなどの多様な創造的活動の実施
- ③ 教科などの新設や統合をはじめとする弾力的で特色ある教育課程の編成
- ④ スクールカウンセラーなどの教育相談体制や学生ボランティアなどの体制整備

などがあり、特に③において、独創的な教育活動を行っています。

社会科と理科を統合した「科学の時間」、音楽・美術・技術家庭科を統合した「創造工房」、道徳と特別活動を統合した「ヒューマン・タイム」などの独自の教科を設定し年間授業時間数を圧縮しています。教科を統合することで、「科学の時間」では自然科学的分野・社会科学的分野の両方に対するの見方・考え方が学べる工夫を行い、「創造工房」では映像と音を使って美術史や音楽史を学ぶなど、学習の意欲を高めるとともに、自ら学び、自ら考える力を育成する教育を推進しています。

また、開校当初から一般的な校則ではなく、生活しやすくするためのマナーやルールを生徒自身で考えるといった、生徒の主体性や規範意識を育む取組を進めています。

校舎は木材を多用して温かい雰囲気を作るなど、緊張感や不安感の高い生徒であっても過ごしやすい教育環境を工夫しています。



木を使用した温かみのある教室

定員は3学年合わせて40名程度とし、学年ごとにクラス編成を行うのではなく、全校生徒を「ウイング」と呼ばれる4つの縦割りのグループに分けて学校生活の基本としています。

よりよい人間関係の築き方について学習する機会を設けるほか、学習活動ではグループを小さくして、個々の学習課題に応じたきめ細やかな指導を行ったり、体育やヒューマン・タイムでは大きいグループを作り、集団活動を経験させたりするなど、それぞれの生徒が社会的自立に向けた力を身に付けるとともに、楽しさや成長を実感できる魅力ある学校づくりに取り組んでいます。

生徒数（令和4年度）

	男子	女子	計
1年生	8人	6人	14人
2年生	4人	5人	9人
3年生	8人	14人	22人
計	20人	25人	45人

洛風の教育課程

無理なく学習できるような工夫

年間総授業時数・・・770単位時間

（一般の学校1015単位時間）



【洛風の6つの教科】

国語 105

数学 105

科学の時間 70

創造工房 70

保健体育 70

英語 105

ヒューマン・タイム 140

選択教科 35

総合的な学習の時間 風探し ～風夢風夢～ 70

時間割

		1	2	3A	3B
月	1	保体	保体	数学	科学
	2	国語	英語	科学	数学
	3	科学	数学	英語	国語
	4	英語	科学	保体	保体
	5	SH	SH	SH	SH
火	1	科学	国語	数学	英語
	2	創造	科学	英語	国語
	3	数学	創造	国語	数学
	4	風夢	風夢	風夢	風夢
	5	SH	SH	SH	SH
水	1	選択	選択	選択	選択
	2	国語	創造	英語	数学
	3	LH	LH	LH	LH
	4	創造	国語	数学	英語
	5	SH	SH	SH	SH
木	1	風夢	風夢	風夢	風夢
	2	英語	数学	国語	科学
	3	国語	英語	科学	創造
	4	数学	国語	創造	英語
	5	SH	SH	SH	SH
金	1	数学	英語	創造	国語
	2	LH	LH	LH	LH
	3	英語	数学	保体	保体
	4	保体	保体	国語	創造
	5	SH	SH	SH	SH

指導体制

校長	1名
教頭	1名
教諭	10人
養護	1名
常勤講師	2名
非常勤講師	3名
事務職員	1名
専門主事	1名
スクールカウンセラー	3名
スクールソーシャルワーカー	1名
その他、総合育成支援員、校務支援員、学生ボランティアなど	

(2)洛友中学校について

洛友中学校は、様々な事情により義務教育を修了できなかった方などへの教育保障を行う夜間中学（夜間部）に不登校を経験した生徒を対象とした昼間部を併設して誕生した全国初の不登校特例校です。

昼間部の定員は3学年合わせて15名程度とし、年間770時間の授業時数の中で、一斉授業でありながらも、複数の教員が生徒たちの様子を丁寧に観察しながら、一人一人に応じた指導を行っています。

また、月・金曜日の放課後の時間帯に、生徒が学校の楽しさを体感できるよう自由に運動や創作活動などを楽しむ時間を設けています。

生徒数（令和4年度）

	男子	女子	計
1年生	1人	1人	2人
2年生	2人	2人	4人
3年生	2人	7人	9人
計	5人	10人	15人

昼間部の時間割

校時	13:30～ (10分)	1校時 (50分)			2校時 (50分)			3校時 (50分)			5校時 (30分)	6校時 (45分)
クラス	全昼間部	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	昼夜	昼夜
月	学活	道徳			国語	理科	数学	理科	数学	英語	総合・交流	課外活動
火	学活	数学	社会	英語	社会	国語	美術	国語	英語	美術	音 / 技家	
水	学活	英語	数学	社会	社会	美術	数学	国語	美術	英語	交流	課外活動
木	学活	理科	英語	数学	数学	国語	理科	英語	社会	国語	美 / 保体	
金	学活	数学	英語	社会	美術	数学	理科	美術	理科	国語	総合・交流	課外活動

※黄色の部分は夜間部との合同授業

指導体制

校長	1名
教頭	1名
教諭	7名
養護	1名
常勤講師（うち兼務）	4名（1名）
非常勤講師（うち日本語指導）	4名（1名）
事務職員	1名
管理用務員	1名
スクールカウンセラー	1名
スクールソーシャルワーカー	1名
その他、総合育成支援員、校務支援員、学校司書、ボランティアなど	

昼間部の大きな特徴は、授業を午後から開始し、午前中の登校が難しい生徒にとっても通いやすい時間割としていることです。また、昼間部と夜間部を併設していることを生かし、双方の生徒が実技教科をともに学ぶ「合同学習」を行ったり、学校行事や「交流の時間」などで、互いに交流する機会を設けたりするなど、様々な世代や国籍の生徒がふれあい学びあう取組を進めています。

夜間部には、かつて戦争、貧困など様々な理由で学ぶことができなかつた方や不登校により中学校で学ぶ機会

がなかつた方が在籍しています。夜間部の生徒たちの「行くことができなかつた学校で学びたい」「成績や進路のためではなく、学びたいから学ぶ」という思いで、純粹に学びに向かう姿勢は、まさに洛友中学校の教育理念でもある「学びの原点」と呼べるものであり、昼間部の生徒たちにも大きな刺激となって、学ぶことへの意識の向上につながっています。

主な昼間部・夜間部合同行事（令和4年度）

6月	球技大会
7月	科学センター学習 自然体験学習
9月	生け花体験
10月	文化祭
11月	修学旅行
12月	アウトリーチコンサート 寄せ植え体験 年末懇親会
1月	陶芸教室
2月	送別激励会

また、昼間部の生徒にとって、学校という身近な社会で、世代や国籍を越えた夜間部の生徒と交流することは、多様性のある豊かな考え方を育むことにつながっています。このような取組を通じて、「学ぶ楽しさ」や「わかる喜び」を体感できる学校づくりを進めています。



昼間部と夜間部の合同の授業（音楽）



昼間部と夜間部合同の校外学習

おわりに

洛風中学校・洛友中学校の卒業式では、この学校での時間が自分にとっていかに貴重なものであったのか、生徒自らしっかりと自分の言葉で、感動的な答辞を述べてくれます。その言葉の源には、生徒の抱える様々な背景を理解し、一人一人の気持ちに寄り添う教職員や共に学び共に大切な時間を過ごした友人たちとの出会い、また自分に合った居場所で自分らしさを取り戻せた経験などがあるように思います。

不登校に至る経緯は様々であり、不登校特例校は全ての不登校児童生徒にとっての最適解ではありませんが、学校に通いたくても通えない子どもたちにとって、学びやすい柔軟なカリキュラムのもと、集団での学びの場を提

供する貴重な仕組みであることは間違いありません。不登校特例校が全国に広がり、全国の困りを抱える生徒にとって自らの可能性を育み、開花させる居場所が増えることを願ってやみません。

洛友中学校夜間部の皆さんが出演する文部科学省広報動画「【夜間中学】人生を拓く場 いつからでも学ぶことのできる場」絶賛公開中!

「私は学びたいから学ぶ」夜間中学では様々な背景から義務教育を十分に受けられなかった方が高い志を持って勉学に励んでおられます。勉強そのものを心の底から楽しんでおられる生徒の皆さんの姿を、ぜひご覧ください。

- ・【夜間中学】人生を拓く場 いつからでも学ぶことのできる場<ダイジェスト版>
<https://youtu.be/Hvya7VQUD1Q>



- ・【夜間中学】人生を拓く場 いつからでも学ぶことのできる場<本編>
<https://youtu.be/jCGcqPl6WGW>

